

鬼無里ヒストリー

鬼無里ブランドえごま栽培加工事業

有限会社ふるさと鬼無里

村営施設の民営化に伴い平成14年会社設立

平成14年より、地域のえごま生産者より買い上げたえごまを使用し『えごまクッキー』を開発して、製造、販売、卸と始めました。平成17年長野市と鬼無里村が合併しえごまクッキーが長野



推奨土産品選定事業にて最優秀グランプリを受賞。

これを機会に、えご



まの品質、生産収量を上げるための栽培方法な

ど生産者とともに研究し、生産量毎年1トン近くを集めており、さらなる改良を目指し品質改善を行っております。



卸販売を始めた平成17年当初は農家数40軒、収量350kgから始め、生産者募集、栽培方法講習など進め、平成20年には50軒、収量450kgと増加しましたが、生産者の高齢化もあり、栽培は軽作業で良いが選別は細かい作業で目が痛い、肩こりがひどいと、生産者数が頭打ちとなり、平成21年えごま選別

機導入し、農家の皆さんが一番大変な作業えごま選別の負担を軽減することにより、生産農家数も70軒と増え、収量も1トンを超えるようになりました。

より収量を上げるための栽培方法など研究し、パンフレットを作成し、各農家に配布したところ、同じ面積でも昨年より1.5倍も収量を上げる農家も出てきました。



平成28年5月よりえごま油を搾油する準備始め、施設整備、低温圧搾搾油機導入と行い、6月に試作し化学検査、細菌検査、成分検査と規格に合格する製品を完成させました。えごまは健康に良い物だと認識され、購入者が増えて来ましたが、国産の物をというニーズにこたえると、数が少なく手に入りにくいものとなっています。

あえて鬼無里産にこだわり、えごま栽培

は軽作業で行えるので、地域の年配者が中心となり現在行われているものを、年齢40代、50代の兼業農家にも呼びかけ作業の簡素化、農閑期の集中作業など工夫し、収益を上げる事で栽培者も増えてきて、注文に応じられなかった、商品数、生産数も増す事が出来るようになってきました。

